

中原区ソーシャルデザインセンター 創出に向けた検討会

中原区役所まちづくり推進部企画課

令和4年3月4日(金)18時30分開会

次第

1. 本日の目的
2. おさらい
3. かわさき市民活動センター活動紹介
4. 意見交換
5. その他

※グループワークの際等お話しいただく場合以外はミュートをお願いします。事務局の方でミュートにさせていただきます場合がありますが、御理解ください。

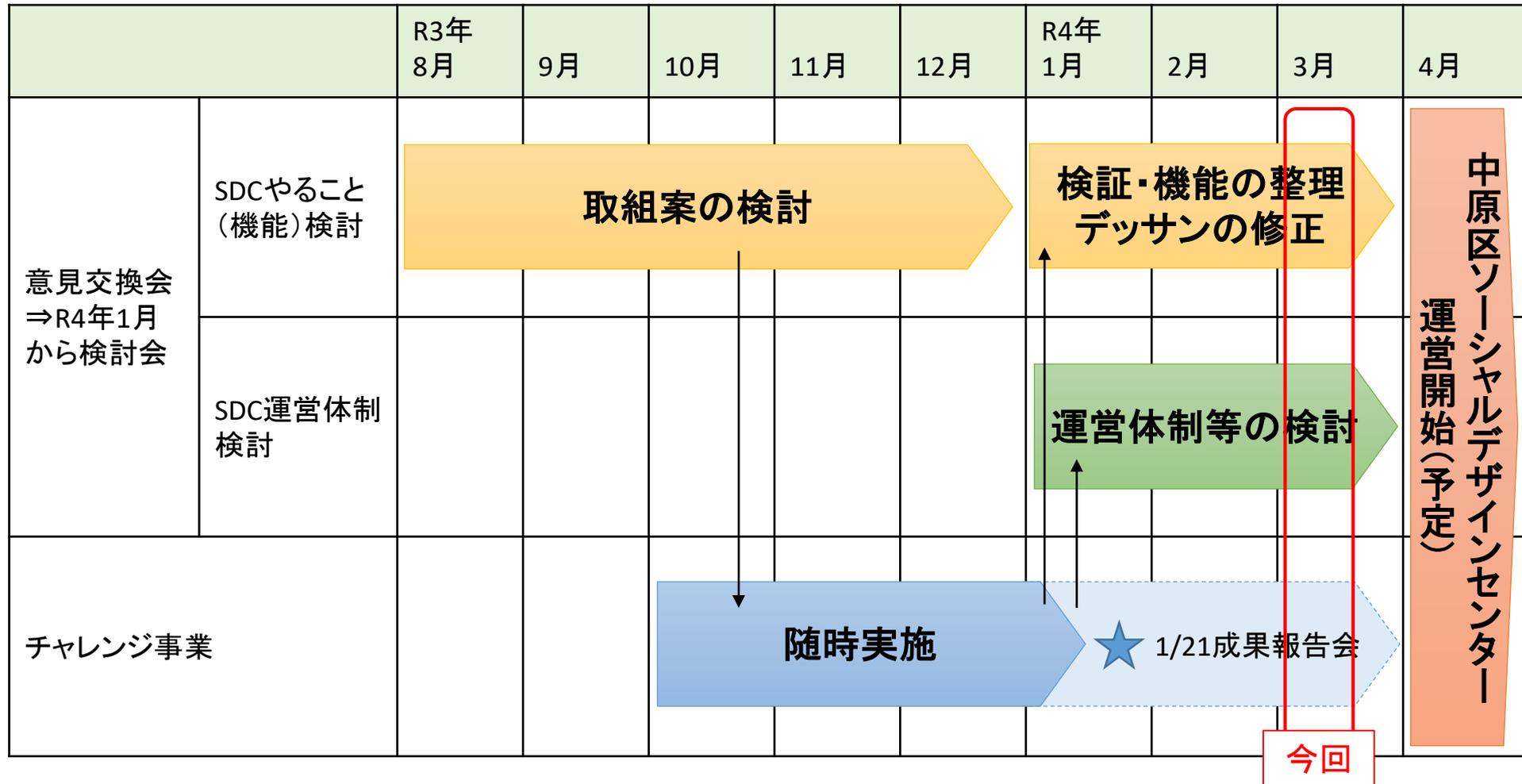
1. 本日の目的

○本日の目的

- ・4月からの活動イメージ（運営計画）について検討する

2. おさらい

○検討のスケジュール



おさらい

ソーシャルデザインセンターとは・・・
地域で新しい活動や価値を生み出す基盤
(プラットフォーム)



- ・コミュニティ活動の基盤
- ・地域主体(地域住民)
- ・資源を持ち寄る、
自主財源を探す
- ・コミュニティの基盤
づくりに必要なこと



- コミュニティ活動
- 行政(区役所)
- 行政からの補助金

- 活動場所

おさらい

○中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(抜粋)

設置案

地域活動の主体ではなく、地域の活動を**支援するプラットフォーム(基盤)**として、地域のさまざまな人や取組について「知る」「集う」「つながる」機会をつくります。

場所

- ・ 中原市民館ラウンジに設置します。
- ・ オンライン上の場も作ります。

※中原市民館ラウンジは令和3年5月現在、利用できません

主体・運営

- ・ 興味、関心のあることで参加できる自由参加の場とします。
- ・ 参加者がそれぞれの資源を持ち寄り運営します。

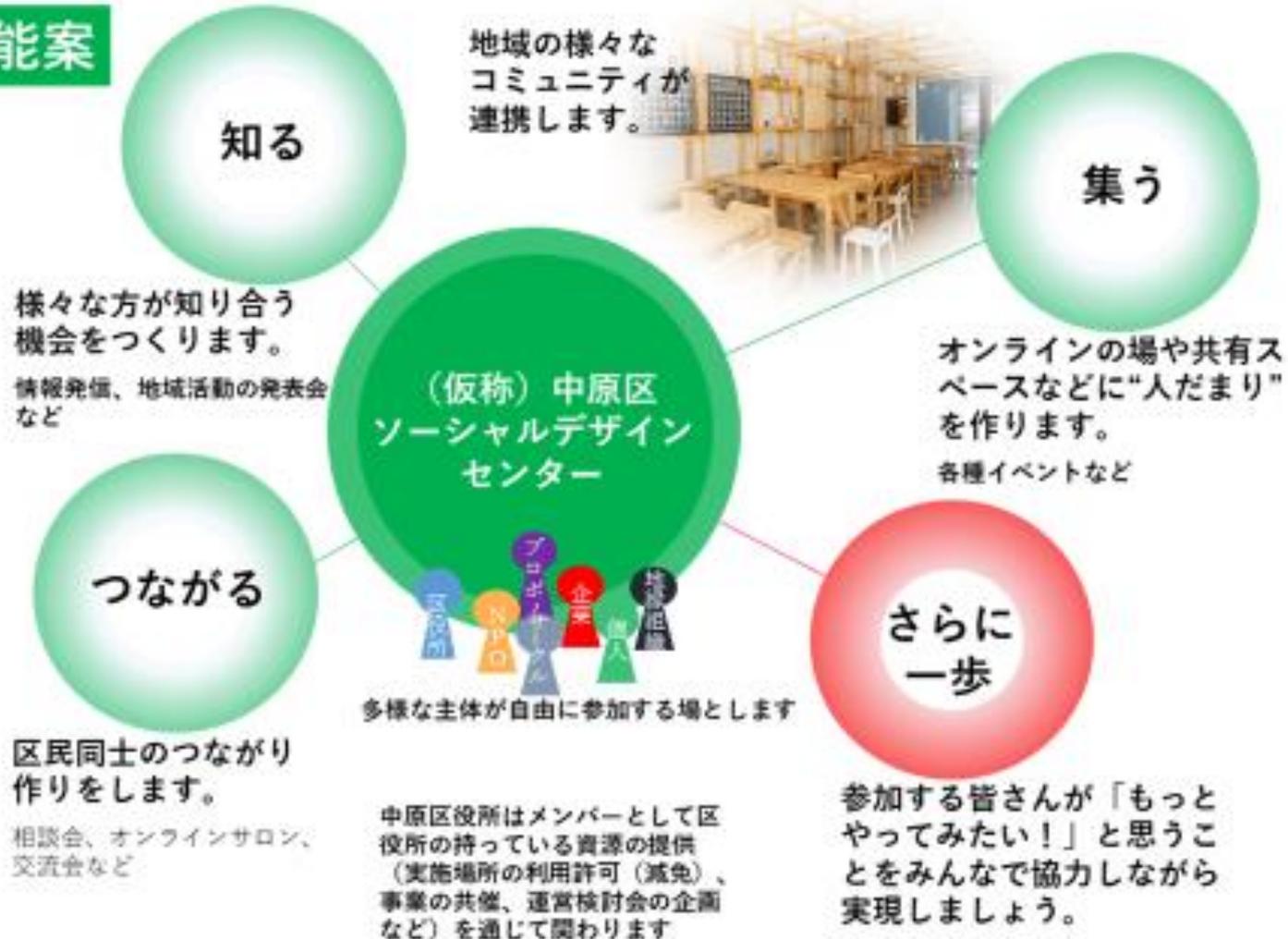
機能

- ・ 情報発信、勉強会、交流会、相談会、シェアオフィスなど「知る」、「集う」、「つながる」を実践します。
- ・ 地域の方同士でコーディネートできる関係づくりを進めます。

おさらい

○中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(抜粋)

機能案



おさらい

○デッサン修正案 (1月21日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会グループノートまとめ)

機能案

○情報収集・発信

- ・発信したい人が集まり、メディアへ情報提供をする
- ・情報へアクセスできる場・媒体を作る(何でも情報SNS、区の情報を気軽に聞ける場、地域課題カタログ)

知る

地域の様々な
コミュニティが
連携します。

集う



(仮称) 中原区
ソーシャルデザイン
センター

つながる



多様な主体が自由に参加する場とします

○場の提供

- ・気軽に集える場(リアルとオンライン)を作る
- ・活動や人がつながる場を作る
- ・活動場所の提供

その他

○マッチング・コーディネート

- ・「人」と「人や情報」をマッチングする
- ・コーディネートを行う(コーディネーターがいる、リンクワーカーがつながる場、コラボ生まれる新しい場を作る)

○中継点(HUB)

- ・地域情報や団体間のHUBとなる

中原区役所はメンバーとして区役所の持っている資源の提供(実施場所の利用許可(減免)、事業の共催、運営検討会の企画など)を通じて関わります

○活動支援

- ・ファーストステップ支援、伴走サポート
- ・スタート時の資金調達支援
- ・試行する機会の提供

2. おさらい

○2月18日検討会の開催結果

- ・実施概要

日時：2月18日 18時30分～20時00分

会場：オンライン

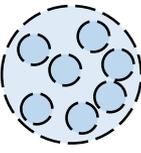
人数：10人

2. おさらい

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

・意見交換テーマ①<運営の仕組みについて>

・運営の仕組みのパターン比較

比較の視点	Aパターン	Bパターン	Cパターン
イメージ図 ・概要	 <p>・各取組をルールだけでゆるく縛る (例: 月1回の定例会で進捗確認する)</p>	 <p>・事務局が各取組の連絡調整を行う</p>	 <p>・1つの団体が各取組を含むすべてを直接行う(例: 幸区、多摩区のSDC)</p>
組織としてのわかりやすさ (市民にとっての使いやすさ)	×	△	○
運営への参加しやすさ	○	△	×
運営の始めやすさ	○	△	×

・前提として検討が必要な課題

- ・デッサン修正案に記載した機能案のうち、どの機能を実践するか
- ・SDC本体の取組と地域活動の区別(各パターンの小さな○は何を指してる?)
- ・既存団体・事業との連携 → 後日Slackで情報交換

2. おさらい

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

・意見交換テーマ②<今後の検討の進め方について>

分類	意見
◎【最も多かった意見】	・まず運営の仕組みを考える必要がある
○【他の視点の意見】	・今できることから始めることが大事。それを洗い出してみてもどうか。並行で形を決めていくのはどうか。
☆【検討を進める前提として確認が必要な意見】	・既存団体をみんなが理解できていないと議論に影響する。まずは既存団体を知ってほしい。

2. おさらい

○既存団体・事業との連携

・Slack「資源情報共有チャンネル」投稿情報まとめ

分類	団体・事業		概要
	【情報収集・発信、ネットワーク化、相談支援を実践する機関とそのデータベース】	【市民団体の相談支援を担う機関】	
①法人	<ul style="list-style-type: none">・かわさき市民活動センター（データベース：つなぐっとKAWASAKI）・中原区社会福祉協議会・ボランティアセンター・川崎市国際交流協会（川崎市国際交流センター）	<ul style="list-style-type: none">・かわさき市民活動センター（データベース：つなぐっとKAWASAKI）・中原区社会福祉協議会・ボランティアセンター	法人化されており組織体制が整い、活動内容は明確で複数存在
②行政又は行政バックアップの団体	<ul style="list-style-type: none">・中原区内地域包括支援センター（データベース：川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト）・中原区役所地域みまもり支援センター・中原区まちづくり推進委員会（令和3年度で解散予定）・大企業と中小企業の知的財産マッチング支援		行政の一機能として組織化され、活動内容は、二つの支援センターはそれぞれ専門的で明確（特化型）。まちづくり委員会は包括的で自由度が高い（包括型）
③市民団体	<ul style="list-style-type: none">・かわさき若者会議・かわさき福祉情報サイト・趣味なび（川崎市の教室一覧）	<ul style="list-style-type: none">・川崎プロボノ部	市民個々人のボランティアで組織運営がなされ、活動内容は、プロボノ部は特化型でわかもの会議は包括型

2. おさらい

・既存団体・事業との関わり方の手法について(Slack「資源情報共有チャンネル」投稿より)

- ① 既存団体の情報をまとめてデータベース化してSDCメンバーや区民も自ら調べられるように公開する(データベース化、情報公開)
- ② 市民からの相談に対して、SDCメンバーが適切な既存団体を紹介する(マッチング、コーディネート)
- ③ SDCメンバーが事務局となって既存団体を束ねた協議会を立ち上げ、団体毎の役割分担などの整理や、区民にとって分かり易くなる様に各団体と調整を図る(協議会)

・SDCの情報発信に関する意見(Slack「資源情報共有チャンネル」投稿より)

既存団体で発信されている情報以外の情報を取り扱う必要がある。

→情報の収集発信をテーマとして、わかもの会議的なゆるいつながりを持った集団として、まずは立ち上げるという道があるのでは。

2. おさらい

○2月18日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会ノート

●意見交換①＜前回の感想＞

- ・既存団体・事業との話について、すみ分けという意図ではなく、既存のデータベースをどうか活用するかという趣旨。わかりやすくするためにまたデータベースを作ること疑問。たくさんデータベースがあると市民が混乱する。同じことの繰り返しにたくない。
- ・始めるにあたって、どのくらいのレベル感でスタートするのがよいか意見聞きたい。
- ・Aパターンは、まさにコスギアート（80団体）。口座や団体規約はあるが、関係性は緩くフレキシブルで、参加のハードルが低く、いくつもワーキングが立ち上がっている。一方で全体をまとめる際、ハブになる人に負担はかかる。だけど、民主的でやっていて楽しい。法人化すると組織の中にヒエラルキーができる傾向。楽しくやるんだったら、まずはAパターンで、緩くスタートしてみても。Aなら場所がいらない。slackは使いにくいので、FacebookやLINEでやりとりが◎。Bパターンならキーパーソンがキーとなる場所に必要。
- ・AとBパターンは、きっちりとは分けられないのでは。Aパターンでも定例会の案内等を行う事務局的なものが必要。「B寄りのA」などがあると思う。また、ここで目指しているものの名前を「ソーシャルデザインセンター」とするかも検討必要。

- ・みんなが同じ方向を向いていけるようにしたい。ABCのパターンに縛られる必要はないと考えている。
- ・関心を持ってもらうため、市民からどう見えるかはきちんとしないといけないところ。まず何をどうやっていくかを詰めていかないと始まらないと思う。SDCの目的の一つはコミュニティ活動の基盤になるのだが、成功事例を作っていないと、外から見たときに伝わらない。外部の窓口はきっちり作りつつ、まずは今のメンバーで、3~4月で、何かと何かを結び付けて活動を生み出していくといったことを行う必要があるのでは。その中で運営体制も定まってくるのではないかと。

●意見交換②＜SDCの運営の仕組みについて＞

- ・解決できない課題は山積しているが、できることから始めていく段階だと認識している。これだけは外せないという視点があれば教えてほしい。
- ・コスギアートはフレキシブルな組織なので、リーダー不在でも開催できた。ただ、パンフレットや感染対策グッズをどこに保管するか、納品時の受入場所など、やはり「場」は大切。市民館のカフェ跡地にチラシの配架場所でも構わないのではと嬉しい。

2. おさらい

・場所が必要という話をとって、すでに民間のレンタルスペースや市民活動センターのレンタルスペースがあったりと、やはり既存のものとの共存をどうしていくか、検討していく必要はあるかと思う。

・SDCは主体的に活動をしないイメージを持っている。 Bパターンの点線部の中に、企画段階の薄い丸がAパターンのように入っているイメージ。かわら版はSDCのメンバーとの連携から生まれたもので、produced by SDCというイメージ。既存団体の活用については、既存のデータベースがなく、SDCとしてストックしたいものはデータベース作る、としたらよいのではないか。

・同じ活動が世の中に1つだけというのも疑問。行政は重複を嫌うが、それぞれに顧客がいれば、同時に存在してもいいと思う。すべての人に刺さる広域ネットワークを作るのは難しいと思っている。

・初めてSDCの話を聞いた時、全てをカバーする組織をイメージした。常駐するスタッフは、何を聞かれても案内できる。理想かもしれないが、SDCは、新たにデータベースを作るというより、問合せに対して、完璧でなくても今あるデータベースを案内するイメージ。

・自分事として考えると、「地域に自分はどのように役に立てるか」と課題意識。そういった人の視点で、SDCがどのようなものだといつか。気軽さ・ハードルの低さ、何かあったときに相談・アクセスできる存在。正直、市民活動センターは行きにくい。市民側の接点となる存在だと良いのでは。

・ハードルの低さが大事。参加も運営も。そのなかで生み出されるものが創発だと思っている

・1人でオールマイティに説明できなくても、SDCのメンバーそれぞれの強みで補いカバーしていければ。 既存の団体がやっていることを、SDCのメンバーは把握しておいた方がよい。そこから既存団体との重複感がわかるようになる。ゲストスピーカーを呼ぶ等するとよいのでは。

・知らないとどこが被っているのか、何が一緒にできるのわからない。皆さんと勉強する機会も作れるとよいと思う。

気軽さが大切。その中でまず何ができるのか考えて行きたい。次回から具体的な取り組みの検討に。

●意見・感想

・slackにデータベースを投げても親しみ湧かないと思う。まずは、包括などに顔出しで説明してもらおうと親近感が湧くと思う。取組の検討と平行してになると思うが、是非区役所から依頼してほしい。

・とても勉強になった。子どもが参加できる部分は残してほしい。 友達も誘えるようにしたい。

3. かわさき市民活動センター活動紹介

○公益財団法人かわさき市民活動センター様より
お話を伺います！

4. 意見交換

○SDCの運営計画について

I. 中原SDCの目的/存在意義

①社会背景

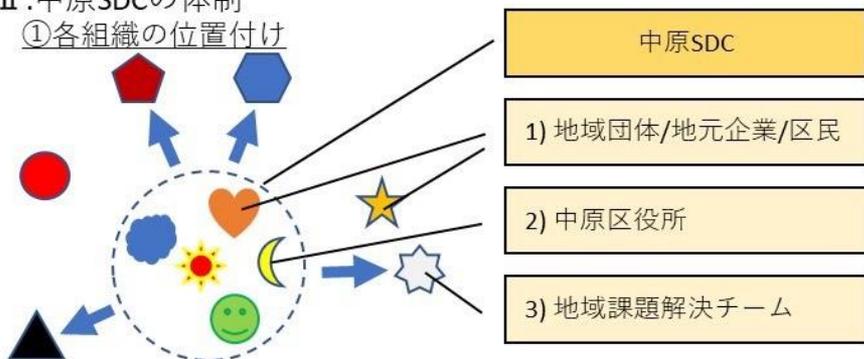
- ・価値観の多様化から従来の画一的な行政サービスが限界化
- ・超高齢社会、ポスト成長時代における豊かな生き方の模索

②目的/存在意義

- ・自分たちの町の課題は自分たちで解決する、の実現
- ・多世代が関わり、寛容で親しみやすい組織

II. 中原SDCの体制

①各組織の位置付け



②構成員

- 1) 地域団体/地元企業/中原区民など
 - ・スポーツや文化活動団体、区内に店舗や事務所がある企業、区民。市民活動センタなども含む区内の広くあまねく組織/個人
 - ・中原SDCに参加しているもの（♡）も参加していないもの（☆）もあるが、できるだけ多くの団体の参加を目指す
- 2) 中原区役所
 - ・中原SDCのクレジット担保や知恵袋。運営を依存する先ではない
- 3) 地域課題解決チーム
 - ・中原SDCから生み出された活動を実施する主体。

③中原SDCの活動内容

- 1) 定例活動
 - ・各種地域団体等の活動を「知る」、それらの団体が「集う」、「つながる」機会を提供。みずからは活動の主体とはならない
 - ・各団体等のニーズ/ウォンツのマッチングにより地域課題の解決をはかる（そのためにチームが組成された場合、②-3）となる）

- ・2週or月に一度、2時間/回の「寄合い」実施
寄合い実施内容は別途検討
Ex. 活動紹介/自己紹介、あったらいいなグループワーク等

2) 任意活動

- ・利用可能な場所での随意交流（詳細はIII.活動場所参照）

④運営体制

以下業務を地域課題解決チームの持回りor常設チーム組成で対応

1) 事務局

- ・定例活動時の各種手配や当日のファシリテーション

2) 情宣

- ・中原SDCの活動を広報、不参加団体等（☆）への加入勧誘

3) 名簿整理

- ・参加/不参加団体等の名簿管理
団体名/代表名/連絡先/HP等紹介ページ/主な取り組み内容を取りまとめデータベース化

4) 会計

- ・活動場所利用実費の支払い。そのため最低限の収益の管理

III. 活動場所

①主たる活動場所

- ・リアル：中原市民館、オンライン：Facebook（案）

②従たる活動場所

- ・リアル：おおきな木？他...、オンライン：Twitter、Instagram

（蛇足）

IV. 発展

①アプリ開発

- ・任意活動時、主/従活動場所に入ったらQRコードでチェックイン
他のメンバにPUSH通知でお知らせし、その団体に会いに行ける

②中原活動団体ポータル

- ・上記II.④3)のデータベースを、団体等の承諾のもとポータルサイトとして公開。各団体の取り組み内容を一元的に見える化

4. 意見交換

○SDCの運営計画について

- ・Slackに投稿のあったSDCの活動イメージ

- ・**定例会**（「寄合い」）の**開催**（既存の取組の状況確認、新しい取組の検討（あったらいいなグループワーク、運営についての検討・情報交換）
- ・**事務局**（情報交換ツール（Slack？）管理、定例会の日程調整と場所の確保、当日の進行）
- ・**広報活動**（活動の周知、加入勧誘）
- ・**名簿整理**（関係する団体や事業等の情報収集・共有）
- ・**会計管理**（お金を使う場合）

⇒それぞれ具体的にどう行っていくますか？

活動の期限、「寄合い」の内容、事務局等の決め方（地域課題解決チームの持ち回りor常設チーム組成？）、広報の手法（チラシ？）、名簿の管理方法

4. 意見交換

○SDCの運営計画について

- ・SDCに参加するルール

- ・できるだけ少ない項目で（5項目程度？）

（案）

- ・地域活動する人が○○のために集う
- ・「してあげる」より「したい」という気持ちで
- ・出入り自由の場とする
- ・情報共有ツール（Slack、Facebook等）に参加する
- ・○○はしない

4. その他

○次回検討会開催予定

日時：3月18日（金）18時30分～20時00分

会場：オンライン

議題：本日の結果に合わせて検討

詳細は追って御連絡します。

おわりに

ご不明な点やご意見、また、新しい参加者のご紹介も常時歓迎しておりますので、何かございましたら、中原区役所企画課までご連絡くださいますようお願いいたします。

今日は
ありがとうございました

